

第4回 四大学連合文化講演会

東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学

環境・社会・人間における「安全・安心」を探る

～学術研究の最前線をやさしく解説する～

日時：2009年10月9日（金）

13:00～16:30

場所：一橋記念講堂

（東京都千代田区一ツ橋2-1-2）

主催：四大学連合（東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学）

共催：日本経済新聞社

企画：四大学連合附置研究所

後援：お茶の水会、東京外語会、蔵前工業会、如水会

定員：500名（入場無料）

お申込・お問合せ先：

東京工業大学すずかけ台地区事務部総務課
総務・研究所グループ（総務担当）

〒226-8503 横浜市緑区長津田町4259番地 J2-1

TEL: 045-924-5903 FAX: 045-924-5970

MAIL: suzu.som@jim.titech.ac.jp

WEB: <http://www.sok.titech.ac.jp/kouenkai2009/>

●プログラム

12:20 開場

13:00-13:10 開会の辞 東京工業大学 学長

13:10-13:20 来賓のご挨拶 文部科学省

13:20-14:00 「グローバルな不安の時代の「安心・安全」:伝統と生活文化からの視点」

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
准教授・床呂 郁哉

14:00-14:40 「安全・安心の経済学」

一橋大学経済研究所 教授・青木 玲子

14:40-15:00 休憩

15:00-15:40 「ペプチドとくすり」

東京医科歯科大学生体材料工学研究所

教授・玉村 啓和

15:40-16:20 「ハードウェアに基づく安全と安心（圧縮性流体の計測制御）」

東京工業大学精密工学研究所 教授・香川 利春

16:20-16:30 閉会の辞 東京外国語大学 理事

参加ご希望の方は、インターネットまたは葉書・FAXにて郵便番号・住所・氏名・年齢・所属先・メールアドレス等を明記し、2009年9月25日（金）必着（先着順）で、上記宛先までお申込ください。

●講演者紹介



床呂 郁哉
とくろ いくや

1965年生まれ。東京大学大学院博士課程中退。現在東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授。専攻は文化人類学。東南アジアのイスラム圏の諸社会や日本各地における伝統文化、物質文化、「人間の安全保障」等のテーマについて調査研究を実施している。これまでフィリピン、マレーシア、インドネシアそして沖縄などでフィールドワークを行う。著書に『越境：スルー海域世界から』岩波書店(1999年)、共著に『「対テロ戦争」とイスラム世界』岩波新書(2002年)など。

URL: <http://www.tufs.ac.jp/research/people/tokoro-ikuya.html>



青木 玲子
あおき れいこ

1956年生まれ。1987年スタンフォード大学大学院経済学博士課程修了、PhD取得。オハイオ州立大学、ニューヨーク州立大学、オークランド大学を経て2006年より一橋大学経済研究所教授・世代間問題研究機構長。専門は産業組織論、応用ミクロ経済学、法と経済学。知的財産と発明家の投資行動や厚生施設の家計の育児行動への影響など、法律などの諸制度の人や企業行動への影響をゲーム理論などを使って分析・評価し、社会的に望ましい制度を模索する。総合科学技術会議議員。

URL: <http://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/faculty/aoki.html>



玉村 啓和
たまむら ひろかず

1964年生まれ。京都大学大学院薬学研究所修士課程在学中に助手に着任。博士(薬学)。京都大学大学院薬学研究所講師、助教授を経て、2005年より東京医科歯科大学生体材料工学研究所教授。1999～2000年米国衛生研究所/米国がん研究所に留学。専門はペプチド・天然物を基盤とした創薬化学。化学により生命現象を解明制御する「ケミカルバイオロジー」から、光により生命現象を解明制御する「センシングバイオロジー」を研究している。日本ペプチド学会奨励賞、日本薬学会奨励賞。

URL: <http://www.tmd.ac.jp/i-mde/www/molb/molb-j.html>



香川 利春
かがわ としはる

1950年生まれ。1974年東京工業大学工学部制御工学科卒業。1996年より東京工業大学精密工学研究所教授。自動制御、流体計測制御、生体計測などの研究に従事。計測自動制御学会、日本機械学会、日本シミュレーション学会などの評議員及び日本フルードパワーシステム学会副会長を務める。機械工学分野の圧縮性流体の計測制御、プロセス制御に約35年間従事。空気圧分野におけるISOに関連し、日本発技術のISO化に努力。また、留学生支援WG主査として東京工業大学の留学生会館の運営、宿舍借上げなどの業務も行っている。

URL: <http://www.k-k.pi.titech.ac.jp/kagawa.html>

東京医科歯科大学・東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学は、2001年3月に四大学連合憲章を結び、真に国際競争に耐えうる研究教育体制を確立すべく、たゆまぬ努力を続けてまいりました。その努力の一環として、世界最先端の研究を強力に推進してきております。そして、この8年間に世界第1級の研究成果を数多く上げてまいりました。第4回目の今回も、学術研究の最前線をわかりやすく解説します。

● 講演要旨

1. 「グローバルな不安の時代の「安心・安全」： 伝統と生活文化からの視点」

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授・床呂郁哉

現代はグローバルな不安やリスクの時代として特徴づけられる。環境問題やテロ、世界金融危機などをはじめ各種のリスクが国境を越えて地球規模で影響を及ぼすような事態が稀ではない。また従来そうしたリスクに対して人々の安心や安全を保障してくれるはずの国家などの制度も必ずしも十分に機能しているとは言い難い状況も認められる。こうした状況の中で自分たちの安心・安全を見直す契機を各地の伝統や生活文化に即した事例をヒントに考えてみたい。

2. 「安全・安心の経済学」

一橋大学経済研究所教授・青木玲子

本当に消費者を守ってくれる法律とは何か？新しい法律や社会のルールを作った場合、人々が新ルールに対応して行動を変えるので、当初は予想しなかった結果になることがよくある。例えば、特許のルールの設定によっては企業が利用を避けるようになり、イノベーションに悪影響を与える可能性が知られている。目的を実際に達成するためには、人々や企業の反応を考慮してルールを作らなければならないのである。経済学の考え方を使ったアプローチを紹介する。

3. 「ペプチドとくすり」

東京医科歯科大学生体材料工学研究所教授・玉村啓和

ペプチドはアミノ酸が列なってきた化合物で、蛋白質よりも小さい。このペプチドは体の中でホルモンとして重要な生命活動に関わっており、また、最近では日常生活の中でもテレビのCMや広告でこの「ペプチド」を耳にすることも多くなり、さらに薬としても開発されている。血糖値を下げる作用を持つインスリンや、カルシウム濃度を調節するカルシトニンもペプチドであり、ペプチドとくすりの関係について述べたいと考えている。

4. 「ハードウェアに基づく安全と安心 (圧縮性流体の計測制御)」

東京工業大学精密工学研究所教授・香川利春

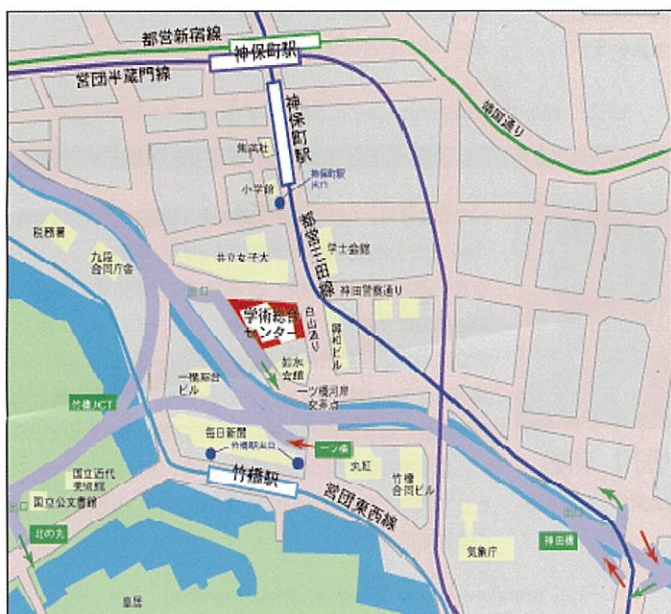
システムの安全と安心は環境やエネルギー問題に並び、重要課題とされる。近年、二酸化炭素排出量の総量規制が政府施策に盛り込まれるなど新たな動きが注目される。その中で、水素やLNGなどのガスは環境に優しくクリーンなエネルギーとして注目されている。そこで、ガス栓を捻るとどんな仕組みで一定の圧力に制御されるのか、可燃性ガスに万一引火した場合に如何に安全と安心が担保されるかについて分かりやすく解説を行う。

● 会場案内

一橋記念講堂：学術総合センター内。如水会館隣の建物。

半蔵門線・三田線・新宿線「神保町駅」A8出口徒歩3分

東西線「竹橋駅」1B出口徒歩4分



● FAX用参加申込書

(送付先：045-924-5970)

第4回 四大学連合文化講演会参加申込書

お名前 _____ 年齢 (歳) _____

所属先 _____

役職 _____

ご住所 〒 _____

電話番号 _____

FAX _____

Email _____

お申込のきっかけ (番号に○を付けてください)

- ① 講演会ホームページを見て
- ② 日本経済新聞の記事・広告
- ③ ポスターを見て
- ④ 大学等からの案内 (大学名等： _____)
- ⑤ その他 (_____)

※この申込に記入された内容は、講演会にのみ使用します。外部に漏れることはありません。